

平成 27 年度 第 2 回 横浜市都筑スポーツセンター指定管理者選定委員会	
【議事録】	
日 時	平成 27 年 8 月 7 日（金） 9 時 00 分～14 時 30 分
開 催 場 所	都筑区総合庁舎 5 階 第 1 会議室
出 席 者	亀山委員長、佐藤委員、鈴木（一）委員、鈴木（昭）委員
欠 席 者	村田委員
開 催 形 態	公開（傍聴者 7 人）
議 題	1 応募団体の書類審査及び面接審査 2 採点審査（指定候補者及び次点候補者の決定）
決 定 事 項	横浜市都筑スポーツセンターの第 3 期指定管理者の候補者を次のとおり選定した。  指定候補者は、公益財団法人横浜市体育協会とする。 次点候補者は、東急スポーツオアシス・東急コミュニティー共同事業体とする。
議 事 等	<p>1 確認事項</p> <p>(1) 第 2 回委員会における審議内容・申請状況について 第 2 回委員会では、応募 3 団体に対して、面接審査を実施し、横浜市都筑スポーツセンターの指定候補者及び次点候補者を選定する。 応募 3 団体全てが欠格事項に該当しないことを事務局から報告した。 また、財務状況についても、3 団体とも大きな問題はないことを税理士から報告した。 なお、村田委員が諸事情により急遽欠席となったが、選定委員会運営要綱第 8 条の規定に基づき、出席委員 4 名で定足数に足りていることを確認した。</p> <p>(2) 面接審査の実施について 応募団体による 15 分間のプレゼンテーションの後、20 分間の質疑応答を行うことを確認した。</p> <p>(3) 審議の進行について 面接審査の順番は、応募受付順とする。各団体の面接審査後にそれぞれの採点審査を行い、3 団体の採点審査が終了したのち、最終的な指定候補者及び次点候補者の選定を行う。</p> <p>2 面接審査</p> <p><u>(1) BSC・SFS共同事業体</u></p> <p>(ア) プレゼンテーション（応募団体から説明） (イ) 質疑応答</p> <p>委員：共同事業体での申込みだが、事業体内部での責任をどう明確化するか。 団体：B S C が共同事業体の代表団体であり、日頃からの運営全般を行う。例えば、</p>

利用者の案内、指導等はB S Cが行い、S F Sは主に施設管理という役割である。S F Sは施設管理のプロで、法的点検等により、利用者のご不便がないように施設管理をしていく。

委員：利用人数の伸び悩みを解消するというが、28年度の利用人数の見込みは23万人で計算されているが、26年度の利用人数は把握しているか。

団体：資料を得られたのが25年度までだったので、そこから28年度の23万人をスタートに32年度には利用人数を3万人増の26万人にしたい。

委員：26年度の実績は既に公表されており、既に利用者数は23万人を超えている。説得力がない感じがする。

団体：事前調査・資料の用い方が不十分だった。その時点での資料をもとに算出した数値で、最終的に目標としては32年度に26万人にしたい。

委員：都筑区でも高齢者が多いという認識の話があったが、提案内容は子どもに関する計画が前面に出ている。その辺りはどう考えているか。

団体：私共の社員は全員が保健体育の教員免許を持っている。勉強もしているため、高齢者にもそれなりの指導はできる。現に県の指定管理者として小田原（神奈川県立西湘地区体育センター）で指導を行っている。横浜市では、子どもの会場ばかりなので、高齢者に指導する機会はないという捉え方をしている。不足な部分については市体育協会、区の協会に指導員の依頼をして利用者のニーズに合った指導を考えている。

委員：送迎バスのターゲットは、早朝開館もされるとあるので高齢者ということか。

団体：今考えているのは、駅まで1日で8回やりたいと思っている。高齢者は朝早く散歩したりしているので、その中にスポーツセンターも入れてもらいたい。7時30分開館を想定しているので、それに合わせた時間帯でスケジュールを組んで、その後定期的に駅への送迎を考えている。現状、バスの本数が少ないので、高齢者のためというよりは運転できない人の利便性等も考えて、利用のあるなしに関わらず5年間運行したい。利用者が増えれば増やしていきたい。

委員：子どもの貧困問題への取り組みについて、学校生活でそれなりの運動は行っているが、貧困によって運動ができないというが、どういうことで問題提起されたのか。また、放課後はキッズクラブなどに通っている子も多いと思うがそういった学校外でスポーツをする児童の比率をどう捉えているか。また、実際に運営するにあたって、守秘義務的なことも出てくるが、一般の方と同じように対応するための仕組みづくりについてどう考えるか。

団体：スポーツの機会が減っていることについて、学校で運動したり、学童保育など子どもの居場所も年々増えているが、二元化ではないが、毎日のようにスポーツをやっている子がいる一方、費用面でそういったスポーツクラブに通えないなど機会がない子もいる。そういった子が増えつつあるという情報を得て、その子ども達に対して、スポーツをする機会を増やしてあげたいと思った。それを利用する・しないは次の段階になる。守秘義務については区の方と協力し

て、周りにわからないようにしていく。どの方が対象になるかについても区に力を借りないといけないと思うので、区との相談は4月からと提案しているが、指定が決まれば早め早めに対応を取っていききたい。子どもたちの情報については館長に一任し、他の職員には流さない、情報漏れがない対応を考えている。

委員：貧困の子どもは地域的にまとまってはいないと思う。バスも出すというが、スポーツセンターの立地を考えると、500人を目標というのは実現可能か。

団体：まずは「形づくり」をしたい。次にどのように対象者を選ぶか。そしてセンターにどうやって呼ぶかだと思う。まずは小学校単位でまわってみてはどうかとか、中には送迎ができる家庭もあると思う。自分で自転車などで来館できる子どももいると思う。すごく難しいと思うが、子どもたちに関わっているものとして実現させたい。

委員：特定の児童生徒を送迎バスで送迎することで、個人情報や状況、差がはっきりする怖さがあると思うが、都筑区の現状と具体的な計画や考えがあれば教えてほしい。

団体：そこまでの細かいデータはない。今、区に貧困の状況を聞いても教えていただけないと思うので、まずは調査して、現状を知り、どのようにすればスムーズに、周りに影響を出さずにできるかを考えていきたい。

委員：スポーツセンターの場所は交通の便が悪い。バス輸送は目玉になると思うが、実際にバス輸送することによってどの程度利用拡大が見込まれるのか。

団体：バスの大きさは2ナンバーの15～25人乗りを考えている。小回りが利く方がいいかと思う。朝と夜運行するが、朝だけで年間1万人を目標にしている。

## **(2) 公益財団法人横浜市体育協会**

(ア) プレゼンテーション (応募団体から説明)

(イ) 質疑応答

委員：第2期における業務点検、第三者評価をふまえ、改善される点をお聞きしたい。

団体：健康志向の高まりによりニーズが高まっているので、区民の健康づくり事業に力を注いでいきたい。ひとつには、健康づくりの教室事業を新たに15個実施する。運動型健康増進施設の指定を受けているので、運動プログラムの実施、ロコモティブシンドロームや姿勢の予防・改善プログラムを展開していく。また、アシックスが協力企業になっており、市、区でもウォーキングに力を入れているので、同社の協力も活かしたウォーキング事業なども展開していく。

委員：都筑区も高齢化していく中で、高齢者に対する健康づくりサービス、内科系医療・整形等も取り入れた健康維持のための施策が提案されているのは良いと思う。それに伴い、高齢者の交通手段について、駐車場の整備を提案している

が、本人が運転できれば、今の芝生を臨時駐車場として受け入れるのも良いが、路線バスの本数が少ない中、もう少し交通手段の整備ができれば利用者も増えると思う。今回具体的な提案はないが、将来的に集客増の手段について検討していることがあれば教えてほしい。

団体：高齢者への公共的な足ということに関しては、前回提案時に試算をしており、実際に仲町台駅、センター南駅からのシャトルバスの導入について検討した。しかし、現在走っている 308 系統は生活維持路線ということで、赤字を抱えながらも交通局が走らせていただいている中で、もしシャトルバスを導入すれば、交通局から路線バスを廃止すると言われた。仮にシャトルバスを走らせるとなると、営業時間内はカバーできるが、通勤通学時など、それ以外の時間帯の生活路線がなくなってしまう地域の方々が困るのではということ、町内会へのアンケートも実施して最終的に導入は断念した経緯がある。そのため、今回の提案にシャトルバスはいれていないが、魅力あるプログラムをもっと PR し、不便だがそれでも行こうと思えるサービスを充実させたいと考えている。また、前回提案時から期間も経っているので、再度交通局と話しはしたいと思う。

委員：公共交通機関という点と施設への交通手段の整備という点とは、整理して対応することができると思う。

委員：もう一点、新しい取組を取り入れている点は利用者拡大につながると思うが、施設の内容とスタッフのバランスもある中で、スタッフの人員が十分に整わないこともあると思う。きっちり運営してもらえるのかが気になる。

団体：常勤職員として 5 名、アルバイトスタッフも含めると 30 名弱の体制でやっているが、マンパワーをいかに集めていくかということは課題だと考えている。地域の人材、スポーツ教室の指導者（6 名程度）の力も借りながらやっていきたい。

委員：現指定管理者として利用者の年代別の統計はとっているか。

団体：50 歳代が全体の 3 割、60 歳代が 1 割、他の年代は均等になっている。どの区も傾向としては同じである。トレーニング室についてはもう少し若い世代の利用が多い。

委員：早朝と深夜の開館時間の拡大については、どのような人を対象に考えて提案したのか。

団体：早朝は年配の方、夜は会社帰りの男性の方、学生が中心となる。

委員：その時間の交通の便について、開館時間が拡大しても行けないと思うがどう考えているか。通勤帰りの人が帰りに寄ったり、早朝は高齢者の人はなかなか難しいところもあるのではないかな。

団体：実際に深夜営業の時間前にバスは終わっている。引き続き区とも調整しながら、交通局に増便のアプローチをしていきたい。引続き検討していきたい。

委員：路線バスがない時間帯だけシャトルバスを動かすこともありえるのか。

	<p>団体：可能性はあると思う。</p> <p>委員：開館時間の拡大は人件費の増にもつながると思うが、その中で利用者をどう呼び込んでいくのか。</p> <p>団体：P 6に記載の通り、お客様がどこのエリアから来ているか、利用傾向の分析をして、交通の便については考えていきたい。</p> <p>スポーツセンターの集客も大切だが、区に1館しかない施設として区全体のことも考えていて、地区センターやケアプラザ、町内会館等利用させて頂いて、指導者を派遣することで、スポーツセンターまで来られない方も支援させていただきたいと考えている。</p> <p>委員：意見箱の設置とあるが、意見はどのくらいきて、いつまでに回答するのか。回答期限が1週間は長いのではないか。</p> <p>団体：現時点、掲示しているのは10件程度となっている。都筑スポーツセンターでは、直接スタッフとお話ししてくれる方が多いので、その場でスタッフが対応しているケースも多い。</p> <p>委員：集客について、夜になると自転車は危ないし、歩くのも危ない場所。できるだけ集客できる時間帯に集客するべきだと思う。また予約する際に車で何台来るかを聞いているのか。</p> <p>団体：駐車場の事前予約はしていない。予約受付の際に交通手段の確認はしていない。</p> <p>委員：農専に車を停めると苦情が来ると思う。予約の際に交通手段の聞き取りもしたらどうか。</p> <p>団体：大きい大会が開催される際は、HP等で混雑見込のお知らせをしている。</p> <p>委員：現状、駐車場には何台止められるのか。</p> <p>団体：第一駐車場は軽自動車を含めて35台、第二駐車場は53台、臨時駐車場はきれいに停めて14台、普通に停めて12台。臨時駐車場は、正面通路を横切るので、いっぱいになってしまう時だけ開放している。第二駐車場の立体駐車場の導入も検討したが、農専地区なので構造物が建てられないということで断念した。</p> <p>委員：駅から歩いてこられるようにマップを作って、駅においてもらえばどうか。健康アピールや準備運動にもなる。温暖化対策にもなる。</p> <p>団体：利用者、教室参加の方にはお声掛けしている。ぜひ取り組みたい。</p> <p>委員：利用者一人あたりの経費についてはどう考えているか。</p> <p>団体：5年間で利用者数を増やしていくつもりなので、一人あたりの経費は必然的に下がるが、コスト削減意識を強めていくためにも利用者のサービス低下にならない範囲で、たった2円だが5年後に削減するという目標を定めてやっていきたい。日々の物品の購入についてもコスト削減の意識を持ってやっていきたい。</p>
--	--

**(3) 東急スポーツオアシス・東急コミュニティー共同事業体**

(ア) プレゼンテーション (応募団体から説明)

(イ) 質疑応答

委員：区の地域性をどのように捉えているか。地域性をふまえた提案についてもう一度教えてほしい。

団体：都筑区は若い方の転入が多いと捉えている。転入してきて5年以内の方も多いため、コミュニティーが作れていない。その方たちに来ていただき、コミュニティーを作っていただけるようなプログラムを用意している。例えば、幼児がいる方向けの教室や託児事業も継承し、よりたくさんの方に集まってもらいたい。

委員：区内の人口推移についてはお話の通りで若い人が多い一方で、高齢者の割合も増えている。健康づくりについても非常に大きな課題だと思う。その中で、教室内容が一人で機械を使って行うものが多いように見える。高齢者の場合には、ある程度の指導も必要だと思うが、どのような内容を考えているか。

団体：高齢者へ配慮しなければいけないと考えている。高齢者に健康のために運動してくださいと伝えてもハードルが高い。まずは囲碁・将棋など足を運んでもらえるきっかけとなる取組を展開し、その後ショートレッスンを見ていただくことで、これならできると感じてもらいたい。ショートレッスンは15分なので低体力の方でもできる。また、パーソナルトレーニング・プログラム提供などの導入も考えているので、そういった取組でもカバーしていけると考えている。介護予防教室については新宿区、葛飾区、北区、横須賀市でも採用されており、自信をもって提供できるプログラムなので参加を促していきたい。

委員：地域支援と地域連携について、99ページ辺りに記載されている内容についてもう少し詳しくして説明もらいたい。

団体：地域支援についてはアウトリーチ活動として、スタッフを市内の団体に派遣する。例えば、中学校の水泳授業に講師を派遣する。もしくは、プールが始まる直前の教師向けの安全教育なども考えている。地域連携については、市内の各団体との連携を考えている。例えば、障害者の活動の場がなかなかないので場所貸しや利用にあたってのスタッフによる支援を考えている。

委員：学校からの要請はあるか。

団体：現状、横須賀市では年に何回か要望、実績はある。川崎市で運営しているヨネティーでは、中学校の職場体験の受入や夏前にプールの監視のノウハウや生徒の対応の仕方について各中学校と調整している。同様なアプローチをかけていきたい。

委員：そのようなことは依頼されてやるのか。

団体：一度実績ができると問い合わせが増えてくる傾向がある。職場体験などで先生と接触する機会もあるので話しをして理解を得ていきたい。

委員：安全管理について、賠償保険についての記述がなかったが。

団体：仕様書に3億円の補償額の設定とある。基本的には、東急グループの包括保険の対象内となるので、仕様書に記載されている内容を満たすと考えている。

委員：インボディなど、自宅での健康管理は魅力的だが、東急スポーツオアシスの客層とスポーツセンターの利用者層は違うかもしれない。一方、利用者のバッテリーもあると思う。サービスが素晴らしいので、その分指定管理料も増えてくると思うがその点についてはどのように考えているか。

団体：そういったサービスは民間でも公共でも標準的になっていると考えている。導入しても大幅なコスト増にはなっていないと考えている。利用者に来てもらうためには、自分で取り組んだことへのご褒美や減量など、結果がみえるコンテンツが重要で、それがきっかけづくりにつながると思っている。コストについても、できるだけ指定管理料への負担がかからないようにしているのでご安心頂きたい。

委員：立地的に利用者を増やしていくのは簡単ではないと思うが、利用者増に向けてどのように考えているか。

団体：現地を見学した際に、公共交通機関を使ったが1時間に1本。高齢者の方などは、バスを使うために時間調整していたりしている。提案したプログラムについては現行のものをスライドさせているが、バス便にあわせるような取組も考えていきたい。送迎バスの導入も考えたが費用的に今は難しい。ただ、センター北のオアシス港北店ではバスを運行しているので、今後これを導入していただけるか、検証の第一課題としていきたい。1年目は現状のままだが、その後はしっかり検証していきたい。

委員：吊り天井の工事について、32年度に見込んでいるが、その際の指定管理料の考え方について説明してほしい。

団体：32年度に工事を見込んでいるが、部分閉鎖ということで人員配置は必要であり、メインの体育施設が使えないので収入減が見込まれることなどから、2,000万円ほど指定管理料は増えると考えている。

委員：収入は2,000万円減だが、支出は300万円ほどしか減少が見込まれていない。人件費が抑えられないからということか。

団体：主に団体利用がメインとなる第一、第二体育室が使えないとなると、工事をしなくても比較的手のかからない部分になるので、人員は減らせないという現状があるので補填していただきたい。

委員：現状、研修室の稼働が低いと思うがどう考えているか。

団体：研修室では、施設の設置目的にもあるように文化的なものをやっていきたい。例えば、ヨネッティーでもやっている着付け教室を実施したい。初年度は1教室、次年度以降は、ニーズをみながら積極的に導入したいと考えている。

委員：東急スポーツオアシスはスポーツをしたい人が望んで通っているというイメージがあるが、スポーツセンターの運営とそう変わるものではないと考えてい

るか。

団体：民間のスポーツクラブの利用者はベテランの方が多いが、公共施設は、価格的にも安価なので運動初心者を受け入れていく絶好の施設と考えている。今まで来られている方以外に、運動をしていなかった方にも来ていただき、スポーツ振興していきたい。

委員：イベント案は、文化的なものもあっておもしろい。

団体：そういうのが好きな館長がヨネッティーにいて、様々な取組を進めている。川崎市からも評価されている。まかせて頂ければ、このような形で積極的に取り組んでいきたい。

委員：開館時間は現状通りか。

団体：初年度は現状通りとして、次年度以降は、利用者のニーズを把握して検討していきたい。

委員：リストバンドの導入は、利用者の情報も把握していくのか。

団体：個人情報の取得が可能であれば登録等もしていきたい。

委員：利用者について、色でスタッフが認識するのか。

団体：最初はそのような形で考えている。その後は教室の時間で色を変えるなど効率化、利用者の利便性が図れるように工夫していきたい。

委員：高齢者向けの教室は5つだと思うが、どのような年齢を対象として、プログラムを考えているか。また、都筑区の特性を考えて5つという数は妥当か。

団体：元気な高齢者がターゲットで、60歳代くらいの運動が必要だと思うが何をすればよいかと考えている人向けに5教室用意しているが、トレーニング室で実施するショートレッスンなども、高齢者向けにも対応出来る内容となっている。現時点では若い世代が多いのでそちらを対象として教室の数も多くしているが、利用状況を見ながら考えていきたい。

また、先ほどの研修室の稼働率についての質問にも関係するが、イスを使った介護予防プログラムなどを研修室で開催するなども考えている。

### 3 指定候補者及び次点候補者の選定（得点：小数点第3位四捨五入）

公益財団法人横浜市体育協会を指定候補者とする。（86.75/最大105点）

東急スポーツオアシス・東急コミュニティー共同事業体を次点候補者とする。

（75.50/最大105点）

## 4 講評

### (1) BSC・SFS共同事業体

全体的な内容は最低限の基準はクリアしており、強みを活かした子ども向け事業の展開や開館時間の完全延長、送迎バスの導入、子どもの貧困問題への取



組、低い指定管理料等、魅力的かつ積極的な新しい提案もなされていた。

しかし、それらの新しい提案についての実現性・実効性・採算性についての具体的説明がどうしても不足しており、不安を感じざるを得ない点がいくつか見受けられた。

高齢者や他の世代の利用者への事業についての実績・経験が少ないということ、また、貧困家庭の子どもの問題についても、基本的には今後区と相談・協議との説明であり、実現に向けたフローや当該取組に活かすことのできるノウハウ、具体像が見えないなど、プレゼンの準備不足もあわせて、提案内容が不足していた。

## (2) 公益財団法人横浜市体育協会

これまで 10 年の指定管理者としての実績・経験を踏まえ、市や区の政策に沿って、都筑スポーツセンターをどのように運営していけばいいのか、考えていることが丁寧に提案されていた。

さらに、現状の弱みなどを踏まえ、新たに施設管理やプロスポーツ分野の強化に向けて専門企業（鹿島総合建物・アシックスジャパン）との協力体制の構築を進めるなど、より積極的な事業展開・施設運営が期待される。

一方で、スポーツネットワークの主催や地域防災訓練への協力、オリンピックに向けた地域を巻き込んだ提案など、公共施設として地域とどのように関わっていけばいいのかという「地域連携・地域支援」の取組も着実に進められており、全体的に安定的で非常にバランスのとれた内容となっていた。

ただし、幅広い事業は行き詰まるおそれもあるので、その辺りは慎重に体制を整えながら進めてほしい。

## (3) 東急スポーツオアシス・東急コミュニティー共同事業体

スポーツクラブの運営という自社の強みを十分に活かした充実したプログラム、最新機器や web サービスの導入等、魅力的な提案内容となっており、また、共同事業体である東急コミュニティーの施設管理実績なども踏まえると、安定的な施設運営が期待でき、東急グループとしてのそのブランド力も評価できた。

文化系の事業とショートプログラムの組み合わせなど、スポーツをされない人と呼び込むというアプローチや自社広報ツールの活用・潜在的利用者の開拓等、区民がより気軽にスポーツセンターに足を運んでいただけるようにするための取組は期待できた。

しかし一方で、肝心のスポーツ事業・プログラムにおいて、現在、実際に都筑スポーツセンターを利用している人たちや地域特性・区民のニーズの分析が弱く、傾向を捉えた上で、もう少し公共性を強く打ち出した提案がなされるともっ

	<p>と良かった。</p> <p>さらに、指定管理料について、吊り天井工事の際に2,000万円増という点が、どうしても他社と比較せざるを得ない結果となった。</p>
そ の 他	